



## 食・消費者委員会で施設見学に行ってきました!!

千葉県生協連では食・消費者委員会の活動として、施設見学をおこなっています。今回は9月に移転を予定している横浜検疫所輸入食品・検疫検査センター（以後検査センター）を見学し13人の参加がありました。

当日は、検査センターの近藤センター長に対応していただきました。始めに検査センターの概要について、明治28年「長浜検疫所」として設立され128年の歴史があること、主な業務として世界各国から輸入される食品の検査と海外から侵入する感染症の検査をおこなっていること、館内はコンタミ※の問題もあり部外者が簡単に入れないので見学は貴重な機会であること等を説明いただきました。※コンタミネーションの略：コンタミネーションとは「混入」の意味



近藤センター長と参加された皆さま

その後、館内を見学しましたが、館内にはセンシティブな情報があることで撮影は禁止されていました。

1階から、信頼性確保部門として、試験結果の信憑性を確保している業務をおこなっている部屋を見学し、その後、検査部門としておもちゃ検査、動物用医薬品検査、有害・有毒物質検査、遺伝子組換え食品検査の様子を見学しました。遺伝子組換え食品検査ではPCR検査室、試薬調整室、放射能測定室等、全ての部屋を区分けしてコンタミを防いでいるということでした。

2階では残留農薬の検査をおこなっていて、検体は全てバーコードを付けて管理され、粉碎から分析まで一連の流れで管理されていました。また検査機器の維持管理についても、日常的な点検をはじめ機器ごとに定められた保守点検を確実に実施することにより機器の性能を担保しているとのことでした。輸入食品の検査を行うために、機器の導入コストのほかに維持管理のためのランニングコストにも多額の費用がかかっていることを教えていただきました。

3階は微生物検査室となっていました。ペスト菌等を管理しているのでテロ対策特別措置法により一般の人は入ることができず、入口から観るだけとなりました。



近藤センター長からガイダンスを聴いている様子

次に登録有形文化財となっている旧長濱検疫所一号停留所を見学しました。ここは明治28年（1895年）に設立され、明治の面影を色濃く残す建造物となっていました。1度、関東大震災で倒壊しましたがすぐに建て直されたそうです。細菌学者である野口英世も長濱検疫所に勤務している時にペスト菌を検出し、一躍、世界に旅立つ出発の地となったそうです。



旧長濱検疫所一号停留所



資料館の説明を受けている様子



当時の談話室



当時の病室の再現

最後に質疑応答をおこない「検査している品目の年間計画について」「施設の移転計画について」「検査結果のタイミングについて」「検査結果の公開について」「過去の分析方法について」「家畜のエサの残留農薬について」「職員の検査体制について」「モニタリングの方法について」等の質問があり、近藤センター長にお応えいただきました。

9月から施設が移転するので、本日が最後の見学者となり、貴重な体験となりました。参加者からも「検疫所の内容を知るととても良い機会になった」などの感想をいただきました。

以上